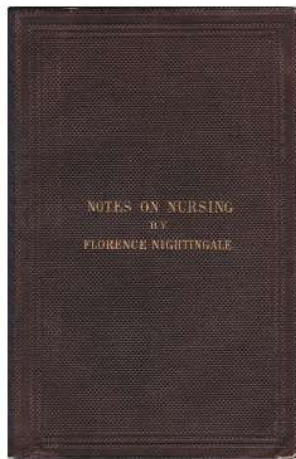


戴帽式を前に「戴帽生講話」が行われました。

◎どのような行為が行われるかではなく、行為を導く意図に「患者の生命力の消耗を最小にする」という一貫性が持たれているかを問うている、次世代を担う生徒たちに看護の魅力や看護のあるべき姿などをお話ししていただきました。

「戴帽式」は、令和6年11月1日金曜日です。



参考：「看護覚え書」初版本 1859年（ナイチンゲール看護研究所蔵）

66

病気とは、健康を阻害してきた、いろいろな条件からくる結果や影響を取り除こうとする自然の働きかけの過程なのである。癒そうとしているのは自然であって、私たちは、その自然の働きかけを助けるのである。

99